

財団法人8020推進財団  
平成21年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：墨田区 お口の健康運動から 健康な地域づくり

2. 申請者名：財団法人ライオン歯科衛生研究所 高橋達直

3. 実施組織：財団法人ライオン歯科衛生研究所、社団法人東京都向島歯科医師会、東京都本所歯科医師会、墨田区福祉保健部保健衛生担当、すみだ食育推進リーダー会

4. 事業の概要：

墨田区をモデル地域として、お口の健康運動から健康な地域づくりを推進するために、「住民」が「あらゆる場面」や「機会」を通じて、歯と口の健康に関する「教育」や「情報」が得られる「地域の環境づくり」を目的に事業を展開することとした。本年度のターゲットは、「子ども」とし、「小学校」「食育推進」「子育て」「病院の母親学級」の場面で活動する健康推進者との繋がりや連携、推進した。

1) 小学校の場面では、養護教諭が歯科保健をこれまで以上に推進するために、「使える教材の充実」を目標に養護教諭と共に「冊子」を作成し3校で活用した。2) 食育推進の場面では、すみだ食育推進リーダーが食育の中で「歯と口の健康の重要性」を伝えるために、食育推進リーダーと栄養士と共に、「食」と「歯」の大切さを伝えるための材料として、「冊子」を作成し、3つの活動場面で活用した。3) 子育ての場面では、子どもや保護者が歯についての知識や関連情報を得やすい環境をつくるために、保育士等が園児指導に使える教材の作成を具体化すると共に、当財団の園児向けの紙芝居を基に、保育士の意見を取り入れ作成を推進した。4) 産科のある病院では、妊婦が歯についての関連情報を得られるために、病院で実施している母親学級の講座に歯科の内容を組み込み、講座担当を管理栄養士が行うこととした。内容と使用する教材は、助産師・管理栄養士と共に作成し、平成22年1月より1年間26クールにわたる講座を開始した。今後は、実施した内容についての評価、取組のできていない項目の具体化等について、健康推進者と共に推進して行きたい。

5. 事業の内容：

「地域の環境づくり」を推進するための手段の一つとして、地域の健康推進者と繋がり、協働していくことが重要であると考え、地域の保健行政を司る墨田区福祉保健部保健衛生担当を窓口とし、関係者が連携して推進することとした。今回、活動を進めるにあたり、本年度の主なターゲットは、「子ども」とした。その理由として、歯と口の健康のスタートは小児期にあり、この時期の歯みがき習慣の確立等が、将来のオーラルケア意識や行動に大きく影響するものと考えたためである。また子どもから、保護者や家庭に繋がり、大人に影響を与えることも可能と考えた。そこで、子どもをターゲットとした時の具体的な活動場面としては、「小学校」「食育推進」「子育て」「産科のある病院」の場面で展開することとした。

- 1) 小学校の場面では、養護教諭が歯科保健をこれまで以上に推進するためには「使える教材の充実」「対象に応じた児童の到達目標と課題の共有化」「共有して使える歯科保健プログラムの作成」「情報を得られる手段の整備」が課題として上がり、今回「使える教材の充実」を目標に、養護教諭と共に冊子を作成し3校で活用した。
- 2) 食育推進の場面では、すみだ食育推進リーダーが食育の中で「歯と口の健康の重要性」を伝えるために、「食育と歯科を関係付けられるプログラムや教材」「食育リーダーが歯科に関する情報を得られる手段の整備」が挙げられ、今回食育推進リーダーと栄養士と共に、「食」と「歯」の大切さを伝えていくための材料として、「冊子」を作成し、3つの活動場面で活用した。
- 3) 子育ての場面では、子どもや保護者が歯についての知識や関連情報を得やすい環境をつくるために必要な要件としては、保育士が「歯みがきに関して園児（幼児）の指導に使える教材の作成」「歯科に関する情報を得られる手段の整備」が挙げられた。今回は、保育士等が園児指導に使える教材の作成を具体化するために、当財団の園児向けの紙芝居を基に、保育士の意見を取り入れ作成を推進した。今後、教材に指導者用の解説書を併せて貸し出しできる仕組みづくりを進める予定である。
- 4) 産科のある病院で妊婦が歯についての関連情報を得られるにはどのようにすればよいかを病院の助産師等と検討した。今回は、病院で実施している母親学級の講座に歯科の内容を組み込み、講座担当を管理栄養士が行うこととした。内容の設定と使用する教材の作成は、助産師・管理栄養士と共に行い、平成22年1月より1年間26クールにわたる講座を開始した。

今回、住民の「歯と口」の健康づくりにつながる「地域の環境づくり」のために、子どもが集う種々の場面を取り上げ、そこでの健康づくりを担う養護教諭・保育士・すみだ食育推進リーダー・助産師・管理栄養士と繋がりそして協働して事業を推進した。その過程において、それぞれの健康推進者の活動内容を理解すること、歯科保健の重要性の理解促進とその場面で取組む意義の共有化を図ること、歯科保健を推進するために必要な項目を共に検討することが大切であると感じた。今後は、実施した内容についての評価、取組のできていない項目の具体化等について、健康推進者と共に推進して行きたい。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

- 1) これまで実施した施策（環境づくり）の効果を評価すること
- 2) 関係者と連携して設定した環境づくりのための具体案について、未実施・未完成の項目の実施
- 3) 子ども以外を対象とした環境づくりの推進